

“学びをひろげる わたしと〇人の会” 第 19 回研究会 報告

これまでの 3 年半に渡る 18 回の研究会を振り返って

1. 最初に堀智晴、山本卓雄、松森俊尚の 3 人のスタッフからこれまでの 18 回の研究会の内容を「ごく簡単に」説明しました。

その後、スタッフそれぞれが自分の考える「総括」を話しました。

3 人に共通していたのは、「この研究会が参加者にとって気持ちを楽にして話すことができる場であったのではないか」ということでした。

▼堀さんは、これまでを第 1 ステップとすれば、これからが第 2 ステップと考えていいのではないか。厳しい社会や学校現場に一矢を報いたい。研究会を現代社会と教育界に対して問題提起できる内実のあるものにしていきたい。

具体的提案として、①具体的な現場に関わる取り組みをする。②参加者が会以外の場でも相互に連携をとりながら動くことができればおもしろい。③この会の活動に、子どもにも参加してもらい、直接自己を語る機会をつくる。

▼山本さんは、一人ひとりの学びをこの会で広げ、深めることができただろうか、と問いかけました。様々な人たちが参加して、全員が発言をすることができて、参加者の意見を大事にして、少しは深めることができたのではないかとしながらも、もっと深めるにはどうすればよいかと話をつなげました。

第 2 回研究会で、授業提案に対してグループワークをして会としての授業案・教材づくりに取り組んだが、こうした取り組みが必要ではないか。また、現場に行き、体験して学ぶことも大切に行きたい。

ホームページを立ち上げて、会の発信をして、この会に参加していない人とのつながりができていければよい。

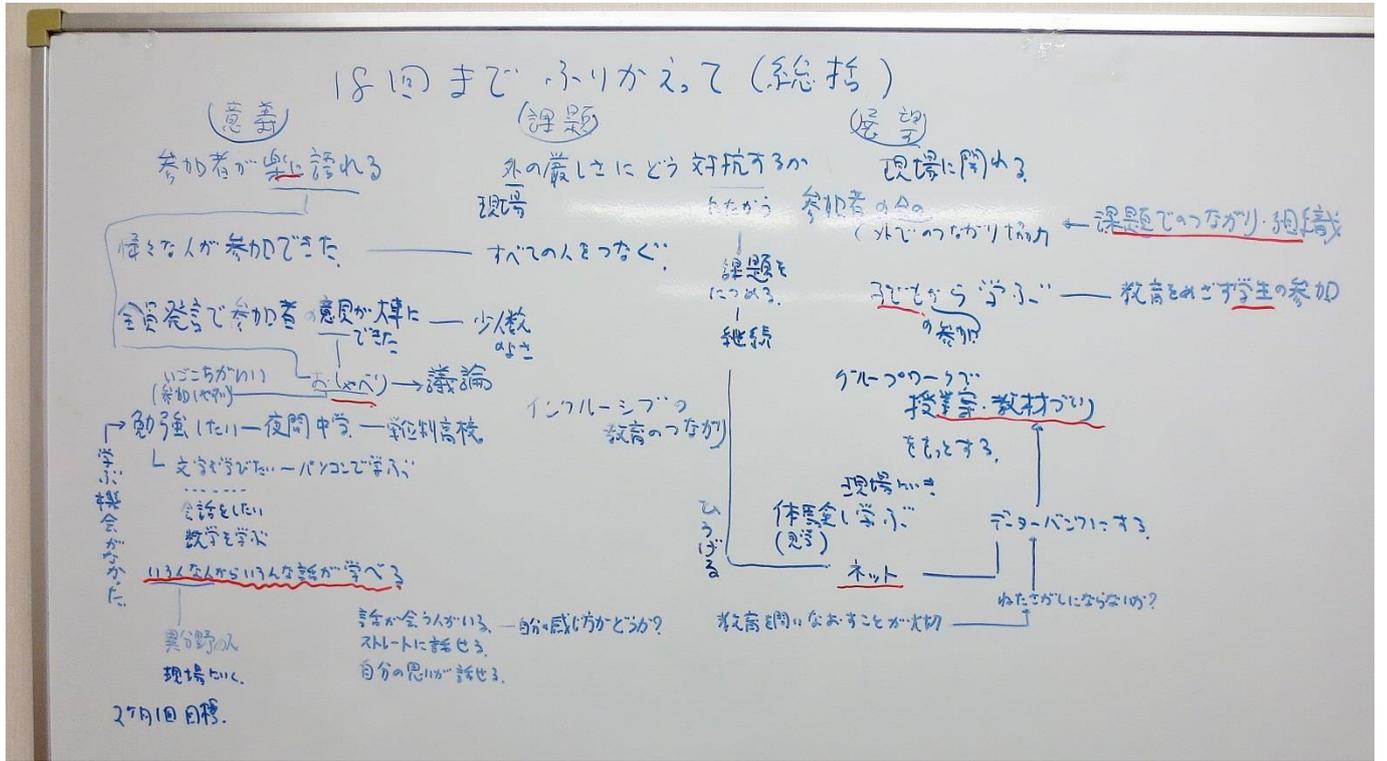
▼松森は、この会をいちばん最初に構想したメモ、東京に向かう新幹線の中で書いたきちゃない字ののですが、それを配って振り返りました。①若い人たちを中心に、もちろん年配者も入って、教材づくりの研究会を目的にした。②全国の人たちとつながりたい。③教材・実践のデータバンクをつくって、インターネットを活用する。④おまけに、インターネットで授業を公開する。そんなことを書いていました。

参加者全員が発言でき、それがおしゃべりとなって続き、やがて議論が生まれる、そんな研究会の雰囲気は何より面白いし、今後とも大切に行きたい。

2. スタッフからの提案を受けて、話し合いました。

奈良の藤本さんは、障害のために小・中学校に行けなかった、親からも「勉強なんかせんでもええ」と言われて行かしてもらえなかった生い立ちを語られました。「文字を覚えたい、人と会話をしたい」との思いが募り、夜間中学に 17 年間（といわれたと思います）、その後定時制通信制高校に 5 年間通ったという話をしてくださいました。もっと聞きたいこと、みんなで話し合いたいこと、お話の中にたくさんの課題がありました。今後ゆつくりと伺えればと思います。

みんなで話し合った流れは、山本さんの「振り返りの板書」(写真)で、その雰囲気を想像していただければと思います。



3. さて、話し合った内容をまとめるのは難しいのですが、以下のように整理してみました。
- ①全員が気持ちを楽しんで発言でき、議論も生まれるこの会の雰囲気をこれからも大切にしたい。
→少人数の研究会だからこそできること。人数を集めることを目標にはしないで運営したい。
 - ②一方で、若い教員や教職に就く前の人たちにも参加してほしい。研究会の内容を多くの人たちに知ってもらいたい。
 - ③課題を1回で終わるのではなく、継続して追求したい。共通認識をつくる。
 - ④いろいろな人が参加する、子どもが参加する、現場に足を運ぶ、ワークショップをするなど、より具体的で現場的な内容を考える。
 - ⑤①と②は矛盾するようだが、どちらも大切にしたい。2~3か月に一度のペースでは、現実的には②③④を実践するのは無理がある。
 - ⑥そこで、インターネットを活用したい。ホームページとフェイスブックを開設する。参加できなくても情報がほしい人、教育、学校、職場、授業、子どもについて意見を表明したい人…をつなぐ。ワークショップを動画で流すことも可能。
 - ⑦研究会以外の場でも、相互に連携をとりながら現場に足を運ぶ機会をつくって行きたい。さっそく、二つの呼びかけがありました。
- ▼2月18日 ヒロキ・オウガさんの通うデザイン教育研究所のイベントに参加して、オウガさんのショップ(果たしてどんなものなのか)を手伝う。
- ▼第16回研究会で報告して下さった岡中克史さんの“森のアトリエ”を宿泊で訪れる。日時、宿泊・研修の詳細については、後日岡中さんと相談してみなさんに報告します。
- こんな具合で、ゆっくり、じっくりと、“学びをひろげる わたしと〇人の会”の第2ステップを歩き始めたいと考えています。みなさん、改めて確認できたのですが、「気楽に参加できて、何かしら発言したくなる、つついおしゃべりになってしまっていて、気が付いたら議論が生まれていた」、それがこの会の一番の持ち味のようなのです。これからも気兼ねなく参加してください。